

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い医療を提供する

新人看護師が多様な疾患や検査を受け持てるよう、クリニカルコーチや病棟スタッフと協働し支援を行い、離職率0%を達成した。また、小児病棟の特性に応じたフィジカルアセスメントに関するOJT計画書を作成し教育体制を強化した。小児科医と連携した急変時対応シミュレーションの勉強会や「看護を語る会」、さらに倫理カンファレンスやデスクカンファレンスを定期的に開催し、患者中心の視点を持った振り返りの場を定着させた。PNS 活動の見直しにより、ナースコールやアラーム対応の迅速化、情報収集時間の短縮、時間外勤務の大幅な削減、インシデント件数の減少など、安全と効率の両面で改善がみられた。後期には業務増加により一時的な対応遅れも生じたが、スタッフ全員での振り返りを通じ改善につなげた。さらに、15歳未満の全患者に養育支援スクリーニングを実施し、必要時はチームと連携して介入を行った。一方で、プレパレーションや新人相談会など一部計画は繁忙により未実施であり、今後の課題として取り組みが期待される。

2) 病院運営・経営に参画する

他病棟の協力を得ながら夜間看護体制 9:1 を維持し、小児入院管理料 1 を継続して算定することができた。入退院支援加算 1 の取得件数は 989 件で未取得 4 件と高水準の取得状況を維持し、入退院支援加算 3 も 6 件算定するなど、退院支援看護師との情報共有を通じ算定率向上に努めた。退院前後訪問は 2 件にとどまり、前年度と同数であった。業務改善では、看護計画評価や入院時チェックリストの入力を深夜帯へ移行し、また PNS による受け持ち割り振りを継続した結果、超過勤務時間は昨年度比 17.6%減少し、効率化が進んだ。さらに 6S 活動では月 1 回の確認を通じて徹底を図り、SPD 物品の整理や車椅子・ストレッチャー点検、指示内容や薬剤使用に関して医師・薬剤師へ積極的に依頼・調整を行い、病棟運営の質向上につなげた。病床利用率は平均 48.3%であったが、病床状況に応じて小児・成人患者を柔軟に受け入れ、8A・6A 病棟とも調整しながら運営に参画した。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

転倒転落に関しては 3b 以上のインシデントは 0 件で、3b 未満の転倒は 2 件(前年比 40%)、転落は 4 件(前年比 25%)と大幅に減少した。特に後期は転落が 0 件であり、スタッフへの勉強会開催や入院時説明・家族指導の実践が成果に結びついたと考えられる。誤薬に関しても 3b 以上は 0 件で、3b 未満は 45 件であったが、うち内服に関するものは昨年比 47%まで減少した。要因として、事例分析や ImSAFER を活用した検討を通じ、与薬マニュアル遵守や指差呼称など具体的対策が浸透し、誤薬防止への意識が高まったことが挙げられる。感染対策ではアウトブレイクはなく、前期の課題であった「準備前の手指衛生」は 40%から 60%に改善、手指消毒使用量も 23%増加した。ICT チームによる個別指導や勉強会、ポスター掲示などを通じて、スタッフ全体の意識向上に繋がった。さらに、点滴貼り替え時の剥離剤使用やエアマットの徹底など、皮膚トラブル予防に努め、院内発生は軽症例にとどまり、褥瘡や MDRPU も悪化なく経過した。全体として 3b 以上の重大インシデントは発生せず、点滴誤認事例を題材とした倫理カンファレンスや誤薬事例分析を通じ、安全文化を強化することができた。

4) 専門職としての能力開発に努める

ラダー I ～ III に取り組む看護師を対象に、フレッシュパートナーやクリニカルコーチと協働して支援を行い、救急外来での初期評価・急変対応などの勉強会を実施し実践力向上につなげた。病棟で必要な看護技術に関する勉強会を開催し、実践を通じて専門的知識・技術の習得を促進した。

5) 質の高い看護職を確保する

病棟アンケート結果をもとに実習環境を改善し、実習指導体制を整備した結果、学生アンケート評価は前年度より向上し、質の高い看護職育成に寄与した。

6) 活気ある職場、元気の出る職場作りを推進する

医師・薬剤師・看護補助者との協働体制を整え、役割理解を促す講義や話し合いを実施した。PNS については勉強会や自己監査、他者評価を重ね、理解度や実践度を高める取り組みを継続し、職場全体の協働意識と活気の向上につなげた。

2. 病床運営状況

表 1 令和 6 年度 病床運営状況

収容可能 病床数 (床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
50	小児科 小児外科	223.5	223.9	31.5	4.3	63.0	77.8

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人/年)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
				3

3. 看護体制

表 2 令和 6 年度 看護体制(令和 6 年 4 月 1 日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
43	PNS [®]	5:5

4. 看護統計

1) 部署データ

令和 6 年度小児救急車ストップ時間: 月平均 0.8 日 (令和 5 年度 月平均 1.9 日)

令和 6 年度小児入院医療管理料 1 算定率: 92.3% (令和 5 年度 算定率: 91.9%)